



明化の教育

5月号 (第445号)
平成29年4月28日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

目的を作りだす力を身に付けた子供に

校長 溝畑 直樹

保護者会でもお知らせいたしました、『学びの教室』での指導が始まりました。人は誰でも苦手なことがあり、それを克服しようがんばっている人は、応援されるべき人です。教室や家や習い事と同じように、何かにチャレンジできる場所が身近にあることはとても幸せなこと。『学びの教室』で指導を受ける子供たちが元気にチャレンジを続けられるよう、引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。



文京区内で「美味しい」と評判の洋菓子店のご主人と話す機会がありました。「機械が発達すれば、このお店のケーキもコンピュータで作ることができるのでしょうか。」と尋ねましたら、ご主人は「それは絶対無理ですね。」と即座にお答えになりました。「なぜなら、うちのケーキは毎日少しずつ美味しくなっているんです。いくら良い味のケーキであっても、私は今日と同じ味のものを明日は作りません。同じ味のケーキを出していたら、お客さんに飽きられてしまいます。『このお店のケーキはやっぱり美味しい』と言ってもらうためには、毎日毎日美味しくするための工夫を続けていかなければなりません。その工夫とは、私の経験と感覚から生まれるもので、刻々と変化していく私の経験や感覚は再現不可能です。だからコンピュータにこのケーキは作れないのです。」と。

「一流と呼ばれている方のお仕事ぶりとは、こういうことなのか」と感心するとともに、お話を伺っているうちに、学校では子供たちにどんな力を身に付けさせることが必要か、その大きなヒントをいただいたような気持ちになりました。

子供たちが生きていく未来は、今よりも人工知能が発達し、これまで当たり前のように人間が行っていた仕事は、コンピュータがどんどん取って代わっていくといわれています。では、人間に残された仕事とは何でしょう。それは、『目的を作りだすこと』ではないかと思います。コンピュータがどれだけ発達しても、それが行っていることは与えられた目的の中での処理です。ケーキで言えば、『今日と同じ味のケーキを作る』という目的を人間が与えたならば、コンピュータでもそのケーキを作ることは可能です。しかし、どんな味のケーキにすればよいのか、次の味を決める、つまり仕事の目的そのものをコンピュータが作りだすことはできません。人間らしさを発揮して生きるとは、「自分の目的を作りだす」ことであり、それこそが、主体者として生きていくために必要な力だと思います。

今年度本校では、『自らが主体者となって生きる児童の育成』を主題とし、授業の在り方を変える研究を進めていきます。「今日は〇〇をやります。今日の学習のめあては△△です。」と、子供たちの学習目標を先生が決めるような授業ばかりでは、『目的を作りだす力』は育ちません。今日の学習や活動の目的を子供たちと先生とが一緒になって考えている、そんな場面はどのようにすれば作ることができるのか。1年間かけて、その方策を見つけていきます。そして明化の子供たちには、どのように生きていくのか、また、生きていきたいのかを自分で考え、自分で決めていける力を身に付けた人になってほしいと思います。